

社会をつなげる公民館へ

ーポスト・コロナとAIそして人生100年時代／
「わくわく」を贈りあう地域をつくろうー

牧野 篤
(東京大学大学院教育学研究科)

1

さらに・・・・・・・・

新型コロナウイルス感染拡大にともなう
「新しい日常(New Normal)」の生活様式

Online生活による社会構造の激変

今後のパンデミックへの対応

3

プロローグ

子どもたちにとって、社会はあるのか

この社会に居場所はあるのか

一人も取り残さない社会の基盤はあるのか

2

この社会をきちんと次の世代に伝える・つなげる

4

社会教育・生涯学習の観点から

5

1. 社会教育の固有性はどこにあるのか

6

新しい学習指導要領(2020年4月から)

体験と言語

質も量も（学校では終わらない）

言語能力を高めつつ、認知能力も非認知能力も

7

社会に開かれた教育課程
(2015年8月中教審教育課程企画特別部会)

8

コミュニティ・スクール 2015年中教審答申

* アクティブラーニング
(教員資質向上答申)

* チーム学校
(チーム学校答申)

* 地域学校協働活動・本部
(地域学校協働答申)

STEM から STEAM へ
Art (Liberal Arts) が重要

コミュニティ・スクール

社会教育を基盤とした
人づくり
つながりづくり
地域づくり

社会教育施設の一般行政への特例的移管認める

(2018年12月中央教育審議会答申)

社会に開かれた教育課程 (2015)

3つの答申 (2015) ⇨ コミュニティスクール
地域学校協働活動
主体的で対話的な深い学び
アクティブ・ラーニング

社会教育士の新設 (2018)

社会教育施設の一般行政への特例的移管 (2018)
「ひらかれ、つながる社会教育」

社会教育・公民館活動

教育行政の事業

行政の在り方としての「社会教育」「学習」
行政の「教育」的再編・「学び」化

事業は住民が自治的に行う
住民自治の基盤としての社会教育・公民館

教育行政はその条件整備に限定される

13

この社会をきちんと次の世代につなげる

昨今の教育政策・行政

中教審答申

2015：コミュニティスクール・地域学校協働活動

2018：開かれ、つながる社会教育

社会教育施設の一般行政への特例的移管

新しい学習指導要領

の背景とこれからの公民館のあり方

14

「社会教育」を基盤とした、 人づくり・つながりづくり・地域づくり

「社会教育」を

「地域運営組織(総務省)」

「地域包括ケアシステム(厚労省)」

「地域防災計画(国交省)」

「地域経済活性化(経産省)」「未来の教室(経産省)」

「ちいさな拠点づくり(まち・ひと・しごと創生会議)」

と置き換えても違和感がない

社会教育でなければならないのはなぜか

15

社会教育の固有性はどこにあるのか

私たちが社会として生き延びること

次世代育成

相互承認・自己肯定

⇒一般行政を超越する(一般行政に優位している)

村の茶の間です
親睦交友を深める施設です



16

社会教育に「目的」はない

社会教育がしっかりしていると、「目的」が生まれる

一般行政は、社会教育の基盤の上で、有効に機能する

敢えていえば、社会教育は「社会」を永続させるための営み

だから、社会教育は一般行政に優越する
でないと、社会は底が抜けてしまう
永続性を失う

しかし、社会教育は、サービスとして考えると、
カネで買えるものと勘違いされやすい
⇨経済発展している・人々がサラリーマンになる
生活が「カネ」でまわっていると勘違いする

17

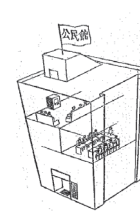
18

条件がある

地域コミュニティの「住民自治」が
しっかりしていること

教育行政の自立性を担保するための
住民のかかわりがあること

民主的社會教育機関です



村の茶の間です



親睦交友を深める施設です

産業振興の原動力です



民主主義の訓練場です

郷土振興の機関です



文化交流の場です



小和田武紀『公民館図説』(1954年)より：文部科学省提供資料

19

20

社会教育・公民館はあまりにも
「教育」になってしまっていないか

「教育」：べき論⇒伝達・注入
・禁止・静的

詰め込むこと・重ねることで保つ

21

サービスの提供と住民の依存となる

税金を払うことが
サービスの購入となる

本来、自治のメンバーシップ

22

むしろ「学び」が基本なのでは？

「学び」：対話と創造・変化
・奨励・動的

動き続けることで、持続する

23

「学び」であることで
自分事となる

自治の基盤となる

自分を皆と一緒に実現すること
⇒楽しい

24

一般行政に教育的なものを浸透させる
一般行政に社会教育・生涯学習を浸透させる
さらに学校教育と連携協働 ⇨ 次世代育成
⇨人々が共生する新しい社会へ
社会の持続可能性を高める = SDGs

25

この時、社会教育「専門職」の在り方が問われる
社会教育主事
⇨「社会教育士」
さらに、公民館主事という
「専門職」の在り方が問われる
いかに住民とともに歩めるのか

27

公民館のウイングを拡げる
公民館「的なもの」も活用する
住民自身が活用することで、
施設も社会も「学び」化する
「学び」で社会をつくりなおす
⇨ちいさな〈社会〉をたくさんつくる
地域づくりの舞台に

26

「社会に開かれた教育課程」と「地域学校協働活動」
子どもの成長を軸に、学校を核に、地域総がかりで
コミュニティ・スクールとアクティブ・ラーニング
(2015年)



「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた
社会教育の振興方策について」(諮問)(2018年)

社会教育施設の所管についての検討
一般部局への特例的移管 (答申)(2018年)

28

2. 人生100年時代の到来

今年度中学1年生の予測平均寿命=107歳

日本人の平均寿命=男性：81歳 女性：87歳

死亡最頻年齢=男性：87歳 女性93歳

健康寿命=世界で最も長い

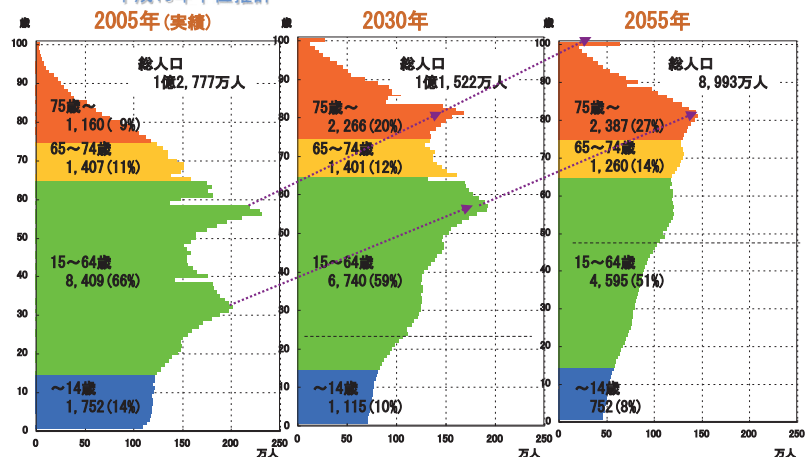
29

30

少子高齢化・人口減少の急激な進展

高齢者人口の高齢化

—平成18年中位推計—

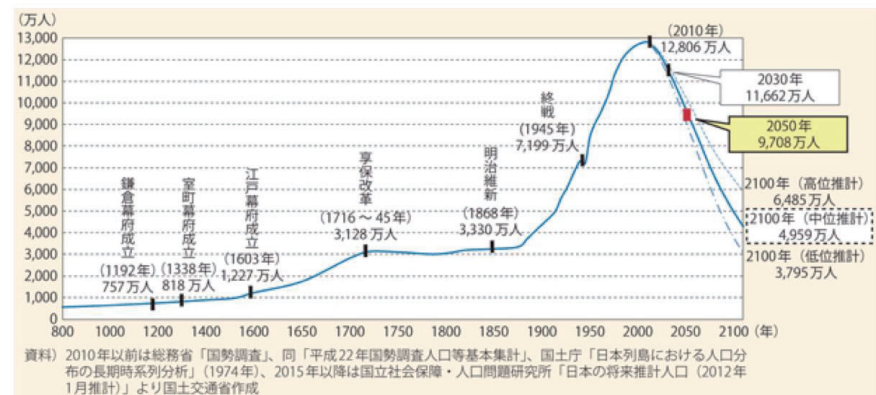


注：2005年は国勢調査結果。総人口には年齢不詳人口を含むため、年齢階級別人口の合計と一致しない。

31

31

人口の長期変動：急激な増加と急激な減少

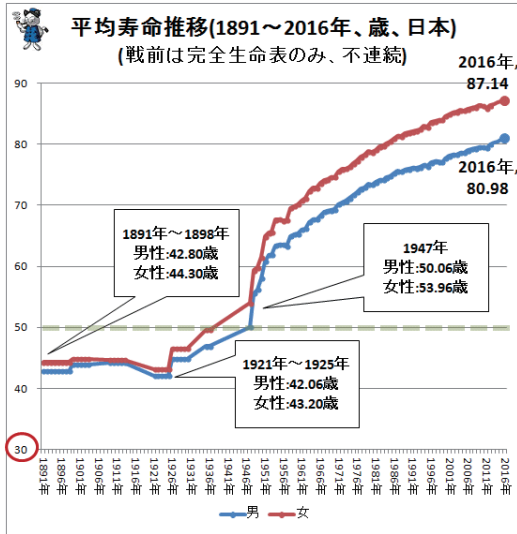


資料) 2010年以前は総務省「国勢調査」、同「平成22年国勢調査人口等基本集計」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(2012年1月推計)」より国土交通省作成

32

日本人の平均寿命 (1891年~2016年)

100年前の2倍

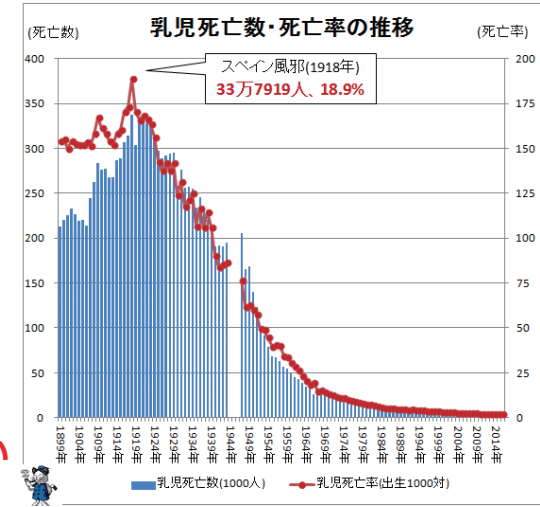


<http://www.garbagenews.net/archives/1940398.html>

1000人あたり 乳児死亡率の変化 (1899年~2014年)

パーセントにすると 最高18.9%
最低0.19%
100年前の100分の1

日本は世界で一番乳児死亡率が低い国の一つ



<http://www.garbagenews.net/archives/1890642.html>

「超高齢社会」における課題設定 Task assignment in 'Super aged society'

「高齢化」の認識 Recognition of "aging"

☆ 誰もが健康で長生きすることを望めば、社会は必然的に高齢化する。
If everyone hopes to live a long healthy life, society will inevitably age.

高齢化は対策すべき課題ではない!
Aging is not the issue to be addressed!

取り組むべき課題 Issues to be addressed

人生100年時代 100 year life era

与えられた時間を如何に楽しく、健康に生きるか。
How to live happily and healthily throughout our entire lives.
二周目の人生における「幸せの形」を見つけること。
To find "the shape of happiness" in the second half of life.

「超高齢社会」 Super Aged Society

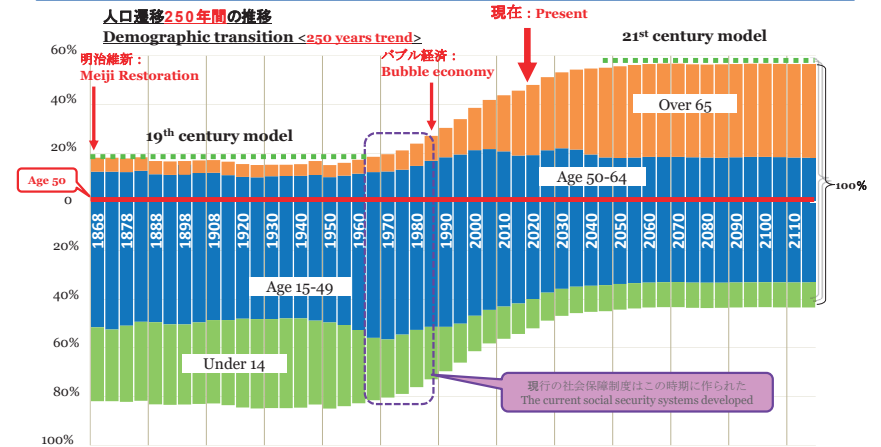
リタイア後の「余生」を送る
Living the "rest of life" after retirement.

「健康長寿社会」 Well Aging Society

自律した生活を送る (尊厳ある生き方)
Living life autonomously (dignified way of living).

人口構造の遷移 Japan's demographic structure & transition

- There has been a **major shift in the population structure** from the 19th to the 21st century.
- It will be **impossible** to maintain the **social security systems** established in 1960-80s.



Source: Sensus, Okazaki estimate, National Institute of Population and Social Security Research 2017 estimate © T Hasegawa RIFH, Japan UN Estimate 2017

少子高齢人口減少社会
から
人生100年社会へ

高齢者への対応から
子どもたちを主役に
持続可能な社会をつくる

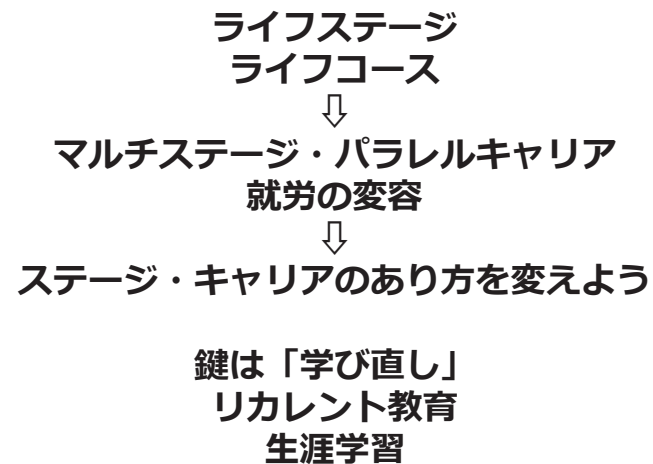
働き方が大きく変わる

マルチステージ
パラレルキャリア
雇用から委託契約へ

100年学び続ける力を

37

38



3. 格差をどうするのか

39

40

21世紀型スキル

(アメリカの)小学校入学生の65パーセントは、
大学卒業後、今ない仕事に就いている。
(アメリカ・デューク大学キャシー・デビッドソン)

現在の仕事は、2030年に50パーセント
が自動化され、消える。
(オックスフォード大学)

だから、すべての子どもたちに、
豊かな「学び」の機会を保障すべき

- ・思考の方法—創造性、批判的思考、問題解決、意志決定と学習
- ・仕事の方法—コミュニケーションと協働
- ・仕事の道具—情報通信技術（ICT）と情報リテラシー
- ・世界で暮らすための技能—市民性、生活と職業、個人的および社会的責任

41

AIは人間を超えるか

AIは数学でできている。
現代数学のアルゴリズム上、人間を超えることは不可能

ただし、人間に取って代わることができる領域がある

42

「東ロボくん」（東大合格を目指して開発されたAI）

現在、**偏差値60前後 MARCH・SMARTレベルはクリア**

うち、数学や世界史では、偏差値76であったことも

東大の偏差値は一般的には、75前後=上位0.4パーセントほど

AIは確実に、日本のホワイトカラー層の仕事を奪う

AIにできないこと

文章を読み、行間を読んで、対話して、判断すること

価値判断すること

価値創造すること

新井紀子『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』（東洋経済新報社）

43

他方で・・・・・・・・、

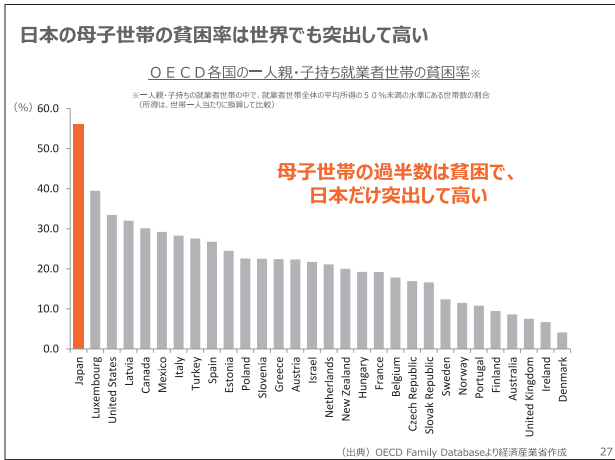
学校は「教育」機関たり得ているか

学校は「福祉」機関化していないか

→学校を再び「希望」を語れる場所に

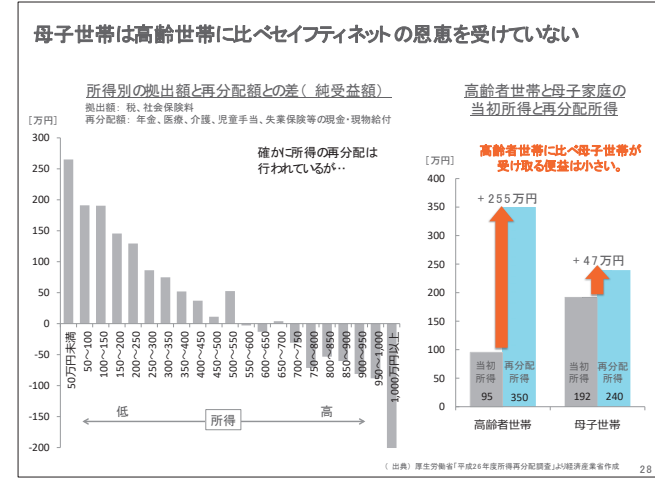
44

子どもの貧困



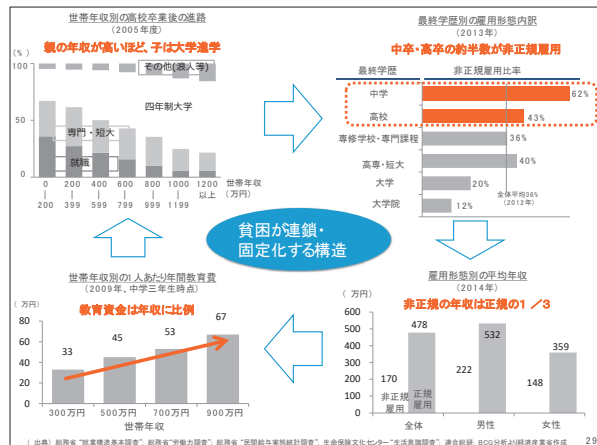
子どもの
相対的貧困率：17%
ひとり親家庭：57%
「子ども食堂」
3500カ所

http://www.meti.go.jp/committee/summary/eic0009/pdf/020_02_00.pdf



http://www.meti.go.jp/committee/summary/eic0009/pdf/020_02_00.pdf

子どもの貧困の連鎖



http://www.meti.go.jp/committee/summary/eic0009/pdf/020_02_00.pdf

校長室にパン・バナナ・お菓子
⇒お腹が減ったら食べにいらっしやい

夏休みが終わると、子どもが痩せている

広島県廿日市市
⇒ある学校の児童館施設で希望者に朝給食

さらに、子どもの読解力の低さ
⇒言語能力

49

貧困は、学校教育を通して、
世代間で再生産される

⇒どこに楔を打ち込み、
悪循環を止めるのか

51

読解力調査による正答率：

鉛筆転がし程度の確率

⇒AIに取って代わられる学力しか
身につけていないのでは

新井紀子『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』（東洋経済新報社）

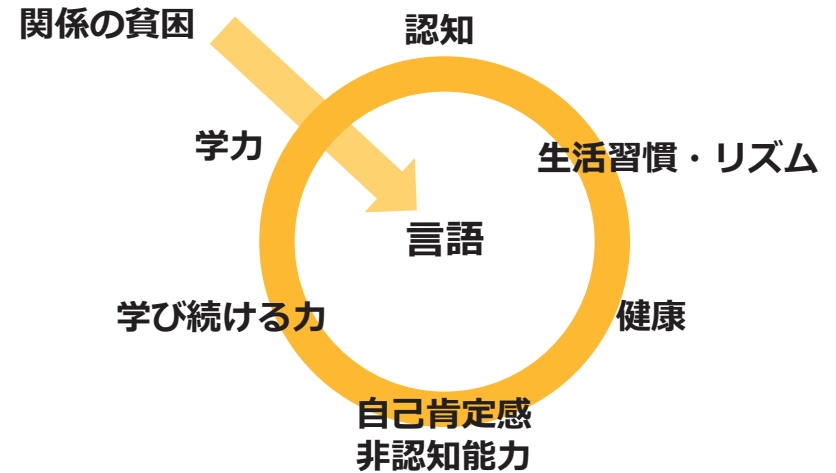
50

生きる力をつけるためには、
学び続ける力が必要

52

学び続ける力のためには認知能力が必要

認知に問題が起こっている？



53

54

4. 帰属・競争から自立(自律)・協働へ

これまでの社会：

工業社会=産業社会

人を人口として扱う社会

(重商主義時代以降[1690年代以降]のこと)

人を道具・手段とする社会

人の欲望は所有欲求によって満たされる

神野直彦『「人間国家」への改革—参加保障型の福祉社会をつくる—』(NHK出版、2015年)

55

56

工業社会の学力

選抜のための学力=人を手段とする学力

⇒ふるさとを捨てる学力

⇒孤立と競争と依存の学力

⇒人を入れ替え可能にする学力

これからの社会：

脱工業社会=知識社会

人をその人として扱う社会

(1980年代半ば以降の消費社会)

人を目的とする社会

人の欲望は存在欲求によって満たされる

神野直彦『「人間国家」への改革—参加保障型の福祉社会をつくる—』(NHK出版、2015年)

脱工業社会の学力

共生・生成・変化のための学力

=人を目的とする学力

⇒ふるさとをつくり支える学力

⇒自立と承認と自治の学力

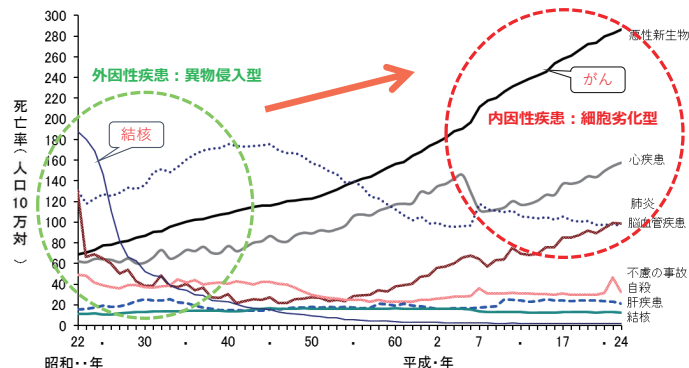
⇒ひとを固有性として見なす学力

疾病治療や社会保障の在り方からも自立・自律へ

人の在り方としての自立・自律へ

主な死因別に見た死亡率の年次推移

- かつて死因の1位だった**結核（感染症：外因性）**は、**抗生物質の使用等により急減**。
- **近年増加しつつある疾患**は主として**老化（細胞劣化：内因性）**や**生活習慣に起因**するもの。
- ☆ **疾患の性質が変わりつつある**ことを踏まえた**治療方法・治療薬の開発が必要**。



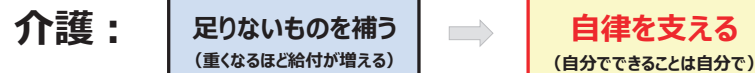
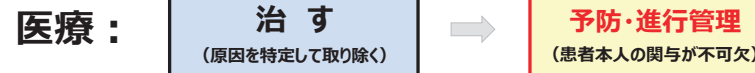
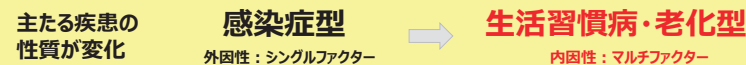
注：1）平成7年度の心疾患の低下は、死に診断書（死体検案書）（平成7年1月施行）において『死亡の原因には、疾患の診断書の形態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください』という注意書きの施行前からの周知の影響によるものと考えられる。
 2）平成7年の脳血管疾患の上昇の主な要因は、ICD-10（平成7年1月適用）による原因別診断ルールの明確化によるものと考えられる。
 （出典：厚生労働省 平成24年 人口動態統計月報年計（概数）の概況）

11

61

「超高齢社会」に対応した医療・介護の在り方

高齢化の下で進む大きな変化



12

62

医療：疾患の性質変化にどう対応するか

主たる疾患の変化



原因	外因性 個別要因 <シングルファクター>	内因性 複数要因 <マルチファクター>
診断に必要な情報	検査によって原因を特定	日々の生活・活動データ ※ これまで正確な情報を入力することは困難（自己申告に依存）
求められるデータの性質	個々の診断・治療で完結 データの接続性は必須ではない	継続的なデータが不可欠 データの接続性がカギ
治療	病名が付いてから対応 専門医の技量に依存 適切な投薬・手術がカギ	病名が付く前から対応 総合的な判断（マルチ分析） 生活指導（食事、運動、楽しさ、薬）

13

63

介護：何を実現するための介護なのか

目的の再確認



居場所	自宅：引きこもり → 「何もしない、することがない」 施設：介護リスクの低減 → 「何もさせてもらえない」	自宅：住み慣れた場所でこれまで通り → 「可能な限り生活・活動を継続する」 施設：新たな活動を行う場所へ → 「ワクワクすることが始められる」
役割	特になし	誰かの役に立ち、「ありがとう」と言われる
活動	レクリエーション、読書、TV...	地域の世話役、ボランティア、農業...
支援	生きるための支援	自律のための支援（プログラムの提供） 「何ができ、何ができないか」を考える機会（大学等）
介助	食事、入浴、排泄の介助...	やりたいことをサポートする

自律と尊厳が失われていく！

常に自分の存在意義を確認！

14

64

医療も介護も、自分で取り組む時代

**誰かがやってくれる時代ではなくなった
誰かに頼っている時代でもなくなった**

65

5. 不穏な未来予測

新型コロナウイルス感染拡大が気づかせたもの

感染症の時代は終わってはいない

**しかし、社会全体が自律的に「予防」
を講じないと感染は拡大する**

そのためには、情報開示と的確な判断が必要

日本社会はできていたか？

66

認知症高齢者数：

2012年に462万人

高齢者に占める割合15パーセント

予測では

2025年に730万人、20.6パーセント

2060年には1154万人、34.3パーセント

総人口の13パーセントを占める

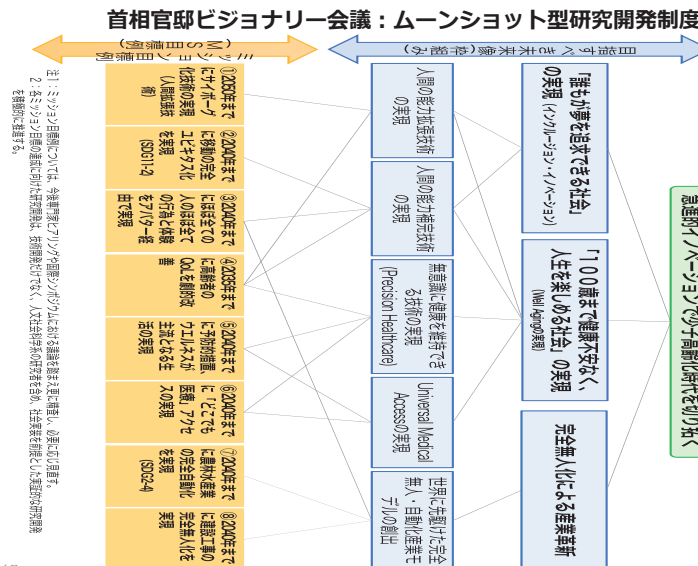
MUFG「認知症の現状と将来推計」、
<https://www.tr.mufg.jp/shisan/mamori/dementia/>(2019年9月9日閲覧)

厚生労働省オレンジプランの推計

67

68

科学技術の面でも、 自我の一貫性が問われる事態になる可能性



ムーンショット型研究開発制度が目指す未来像 JST-NEDO 実現可能性の検証作業 人生100年時代と少子高齢化の克服

1. 2050年 人間拡張化技術
2. 2040年 移動の完全ユビキタス化
3. 2040年 ほぼすべての人の
ほぼすべての行為と体験を
アバター経由で実現
4. 2035年 高齢者のQOLを劇的改善
5. 2040年 予防的措置・ウェルネスを
主流とする生活の実現
6. 2040年 どこでも医療アクセスの実現
7. 2040年 農林水産業の完全自動化
8. 2040年 建設工事の完全無人化

人々の主体性の根拠である自我が
再帰的ではなくなる

連続の自我ではなく、
自己を見つめる自己としての自我ではない

自己は他者が決める一回性・即時的なものに

⇨システムが「お前」と決める時代？

「就労」の変容

「就社」「雇用」⇔「業務委託」
テレワークの一般化

73

「生活」：
公的生活（通勤・労働）と私的生活



生活の中に労働をどう位置づけるか

74

6. 子どもに必要な相互承認と対話的学び

貧困問題を「カネ」ととらえると
見えなくなるものがある

「カネ」も大事だが、
学力問題としてとらえると
市民のかかわりが見える

貧困と学力の関係には迂回路がある

75

76

貧困家庭の子どもは学力が低い

なぜ？

お金と学力の間に「学び」がかかわっている

77

非認知能力が、健康も左右する

日常生活を維持しようとする気力と自己肯定感

日常生活のリズムを刻むことと学力・健康

新しい「学び」は子どもの人生そのものにかかわる

79

非認知能力（自己肯定感）と「ことば」

虫歯の数は、生活習慣全般に依存するものであり、必ずしも単一の要因のみで決定するものではない。

虫歯の多い子供には見られる精神的な傾向は概して「意志が弱い」と判断される項目を多く含んでいると考えられる。すなわち、理論的な思考で正しい行動を選択するのではなく、むしろ本能的な要求に従う傾向が認められた。

この精神的な要素は、「甘いものを我慢出来ない」「虫歯の予防措置(歯磨き等)を怠る」などの行動に至りやすく、虫歯の増加を助長する重要な要素である。

本間 達・若松 秀俊「子供の生活習慣と虫歯の関連」日本健康科学学会
Health Science vol.19 No.2 2003

78

80

食事中にテレビを見る子供に有意に虫歯の罹患率が高いことが示されている。

(テレビを)見る時間が長い子供ほど虫歯が多い

インスタント食品・レトルト食品などの咀嚼の少ない食品を多く食べる**粗咀嚼習慣群**の子供に**不定愁訴が多く、精神面に不安定要素**が見られた。

虫歯が多い子供ほど食事が不規則である傾向が認められた。

本間 達・若松 秀俊「子供の生活習慣と虫歯の関連」日本健康科学学会
Health Science vol.19 No.2 2003

81

非認知能力だけでは足りない

「対話」のための「ことば」が必要

83

虫歯が多い子供ほど食事をおいしいと感じておらず、また料理を楽しんでいない傾向が認められた。さらに、食事を無理に食べており、**食事時間を苦痛**に感じる傾向が認められた。

子供の身体面の影響として虫歯が多い子供は歯を磨くと出血しやすい傾向が認められた。なお、**虫歯の数と風邪の頻度の間に有意差が認められた**……。

本間 達・若松 秀俊「子供の生活習慣と虫歯の関連」日本健康科学学会
Health Science vol.19 No.2 2003

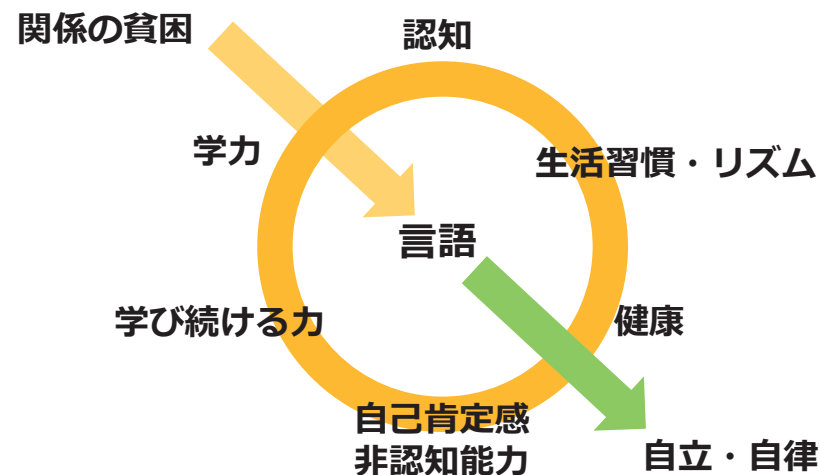
82

話せばわかってくれるという信頼感が自己肯定感を強める

社会に居場所ができる

84

⇒子どもが自分から貧困から抜け出そうとする
 自律・自立しようとする

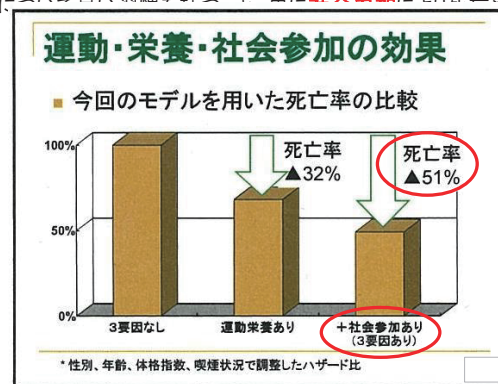


85

86

静岡県高齢者コホート研究

【高齢者14,001人の追跡結果】
 ○運動・栄養については自己選択を促すこと、更に社会参加により死亡率が大幅に低下



出典:「静岡県高齢者コホート調査に基づく、運動・栄養・社会参加の死亡に対する影響について」
 2012年、東海公衆衛生学会、平山朋他

7. どの世代にとっても必要な承認と肯定

87

29

88

ご飯をおいしいと思えない高齢者は、誤嚥が多い

ご飯がおいしい高齢者は、誤嚥が少ない

「食品」を摂っているのか
「食事」を食べているのか

89

人の生きる意欲と地域コミュニティ

人が人として尊重されること
このことが、生きる意欲を生み出す

地域コミュニティも同様

限界集落が集落機能を失う最大の原因
= 気力の減退

「地方消滅論」の危うさ

91

若者の移動の動向

公民館など地域の活動に熱心に取り組む層には、
共通して15歳までの地域活動の分厚い体験がある

(東京大学牧野研究室と飯田市公民館との2014-15年度共同研究)

若者の移動・コミュニティへの定着

利便性より自然環境
地域参加意識
競争より充実
自然相手の仕事
仕事が生活

→ 受け入れられること
文化的なもの
地域社会重視

中山ちなみ「若者の地域移動と居住志向：生活意識に関する計量分析」、『京都社会学年報』第6巻、1998年、p.105、p.106

90

人は本来、対話的にしか生きられない

対話的關係に入ると社会に信頼が生まれる

対話的「学び」へ

92

人々が相互に承認関係を結べる
ちいさな〈社会〉の形成が重要

8. 地域社会の解体

93

94

地域社会とは・・・・・・何？

「組織」ではなかったか

+ 一戸一票制

⇒ 生活形態の変化（共働き・親子中心など）

「家」が変容すると

「組織」の解体：

町内会・青年団・婦人(女性)会・

老人クラブ・PTA・子供会・・・・

組織が壊れると、「いやいや」になる

使命感が薄れる・負担感が増す

やらされ感・負担感を克服するための「楽しさ」

95

96

地域住民がメンバーとして、アクターとして
当事者として、自ら動く
⇒「楽しい」をどうつくりだすか

97

9. これからの社会 — 多元化・多様化と自治

98

社会の価値観の多元化・多様化

一律の行政的対応が不可能

人々が自らコミュニティをつくり、担う必要
⇒「自治」が新たにとらえ返される

99

「生涯学び続ける力」の必要

100

コミュニティと「学び」が焦点に

総務省：地域運営組織・地域生活総合支援サービス
 厚生労働省：地域包括ケアシステム・地域共生社会づくり
 国土交通省：国土強靱化・防災訓練
 まち・ひと・しごと創生会議：小さな拠点
 経済産業省：未来の教室、半径50センチ革命
 文部科学省：コミュニティ・スクール、地域学校協働活動

全国社会福祉協議会：福祉教育から社会教育へ

政府：人生100年時代構想会議
 主要テーマ：学び直し・リカレント教育

どれも〈学び〉を基盤にしないと機能しない
〈学び〉が社会の基盤となる

コミュニティ(〈小さな社会〉)が焦点化される

厚労省の「地域共生社会づくり」

コミュニティにおける
 「断らない相談」「参加支援」「地域づくり」

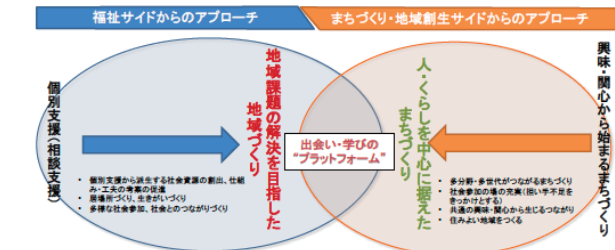
「福祉からのアプローチ」と「まちづくりからのアプローチ」

接点：出会い・学びのプラットフォーム

厚生労働省「地域共生社会づくり」

多様な主体による地域活動の展開における出会い・学びのプラットフォーム

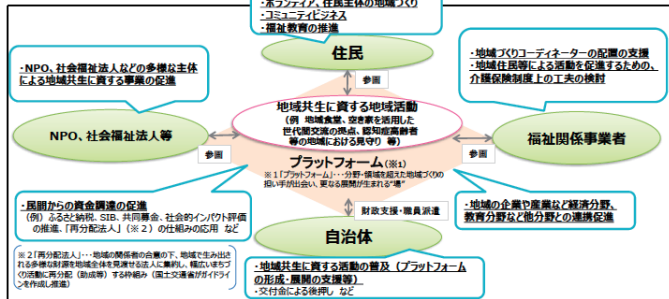
- 地域の実践をみると、「自らの地域で活躍したい」や「地域を元気にしたい」といった自己実現や地域活性化に向けた願いのもと始まったまちづくり活動が、地域の様々な主体との交わりを深め、学びの中で、福祉(他者の幸せ)へのまなざしを得ていくダイナミズムがみえてきた。
- そして福祉分野の個別支援をきっかけとする地域づくりの実践に関しては、個人を地域につなげるための地域づくりから、地域における課題へ一般化し、地域住民を中心とした地域づくりに関していくことで持続性を得ていく過程が見られている。
- 一見異なる活動同士も、活動が変化する中で「個人」や「くらし」が関心の中心となった時に、活動同士が出会い、お互いから学び、多様な化学反応を起こす。そこから生まれた新たな活動が地域の新たな個性となり、地方創生につながることもある。
- このような化学反応はさまざまな実践においてみられており、今後の政策の視点として、地域において多様な主体が出会い学びあう「プラットフォーム」をいかに作り出すか、という検討を行っていくことが求められている。



1. 概要

- 地域における重層的なセーフティネットを確保していく観点から、住民をはじめ多様な主体の参画による地域共生に資する地域活動を普及・促進。
- 地域共生に資する地域活動の多様性を踏まえ、住民などの自主性や創意工夫が最大限活かされるよう、画一的な基準は設けず、各主体に対し積極的な活動への参画を促す方策など環境整備を推進。

2. 考えられる取組



厚生労働省地域共生社会推進検討会議最終報告書資料集

ここにどのように当事者を組み込むのか

責任感で社会は動くのか

「楽しさ」=実現することの楽しさ

⇐「出会い」と「学び」

社会教育ではない
「社会教育」が
社会教育の実体をつくりつつある

10. ちいさな〈社会〉をたくさんつくる

東京大学生涯学習論研究室の〈ちいさな社会〉づくりの試みの一端

1. 長野県飯田市の公民館と「地域人教育」実践調査
2. シニア世代対象の社会参加促進セミナー事業
3. 地域住民を巻き込む多世代交流型コミュニティの構築
4. 若者と高齢者の文化的交流と
新しいライフスタイル形成による中山間村の活性化
5. 空き家の活用による地域の人的交流ネットワークづくり
6. 小中高校と地域住民のプラットフォーム形成による
ふるさとキャリア教育実践
7. 長野県松本市の自治公民館をベースにした
新しい社会システムの形成
8. スーパーシニアが子どもにかかわるまちづくり事業
9. 自治会単位の地域経営を促す自律分散型社会の構築
10. 神奈川県「かながわ人生100歳ネットワーク」の形成事業
11. ものづくりを通じたコミュニティづくり
12. 企業と行政のボトムアップの協働による
新たな役割と市場創出のインパクト・ハブの実験 など

109

多世代交流型コミュニティの実践

千葉県柏市のある地区で進められているのが「多世代交流型コミュニティ」の実践である。これは、高度経済成長期に開発され、現在急激な高齢化に見舞われている戸建て団地地区をフィールドに、範囲を小学校区に広げた上で、高齢者がその他の世代と交流すること、とくに高齢者が孫世代と交流することで、次世代を育成し、自らがコミュニティの主役となるという、ちいさな〈社会〉をつくりだす試みである。この核となるのが、高齢者が組織する多世代交流型コミュニティ実行委員会と彼らが経営するコミュニティカフェである。

この取り組みを通して、コミュニティカフェには子どもを含めた100名を超える住民が毎日訪れては、交流し、地域活動を展開することで、地域の間人間関係が劇的に変化し、互いに慮る関係がつけられている。また、実行委員会は小中高校・特別支援学校とも連携して、子どもを支え、見守る活動をしており、地域からは「多世代さん」と呼ばれて、地域活動の大黒柱として頼られる存在になっている。

111

(1)世代と世代のはざまを埋める ：地域と学校のはざまを埋める

高齢者の気持ち

施設に入らず一生安心

綺麗に老いる

いつまでたっても好奇心を持って

ボランティアは新しいシニア世代のたしなみ

多世代共生・交流型コミュニティの創造

シニアがまちの宝になる

→「安心」「安全」

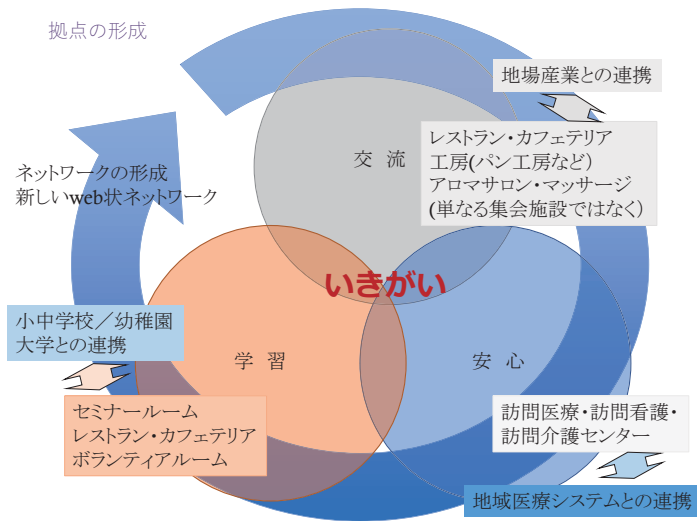
→「つながり」「いきがい」「尊厳」「健康」

→「互いに認め合う」まち

110

12

112



13

シニア世代が誘い合ってまちに出かける
 シニア世代が仲間とともに活動する
 まちがかわる
 まちが、自分の居場所・終の棲家になる
 自分がまちの宝になる

14

113

114

「わたし」は木で、
 「わたしたち」は森。
 この森に、
 多くの木が育つことを願います。

地縁の「たまご」プロジェクト

たまご = 他 + 孫 (よその子を孫にしよう)
 そうすると
多 + 孫 (地域の子ども全体が自分の孫になる)

15

115



まちの長老養成セミナー
 (まちセミ)



まちのキャラクター発表会

16

116



多世代交流セミナー
しめ縄ない



17

117

コミュニティカフェ
まちのキャラクター・シャッターペイント



18

118



コミュニティカフェ
オープニングイベント
2012年5月6日



19

119



20

120



21



Participants of international youth leader program visited the community café. Feb. 7, 2013

121

122



123

124



子どもとの交流が活発化
学校行事を請け負う

子育てに優しい地域との評判
子育て世代が転入
学校が学級増へ

高齢者の「終の住処」としての
コミュニティづくりへ
不動産の循環プロジェクト

楽しくて仕方がない



⇒多世代さん

「多世代」「たまご」をキーワードに、自分たちの物語を紡ぐ
「楽しさ」=わくわくする自分をつくりだす

新しい消費社会=わくわく感を贈りあい、自分のものにする

(2)人と人とのはざまを埋める ：自助と公助のはざまを埋める

都市部の空き家をネットワークする

「住み開き」：
自分の空間をちょっと開いて、公共空間にする
(財)世田谷トラストまちづくり：
「地域共生のいえ」

岡さんのいえTOMO



まちのお茶の間



学生たちの訪問



留学生と餃子パーティー

2014年8月26日(火)
15時～19時
◎岡さんのいえTOMO
(上北3-5-7)

プログラム
★留学生による餃子作り講座
～本場の水餃子を作ろう～
★食事会
～餃子の食べ比べしよう～

中国からの留学生と一緒に
3種類の餃子の具を作ります。
皮作りにもチャレンジ!!

アクロスマップ

◎主催: 岡さんTOMO
◎共催: 東京大学大学院教育学研究科 社会教育学研究実習
・東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 小泉研究室
◎お問い合わせ: E-mail: tomai.okasan@gmail.com
★参加の申し込みは必要ございません。
★参加費は1500～1700円は岡さんのいえで業務ご費用
を差し控えています。



餃子の具作り、野菜も切っています。



① 岡さんのいえでのイベント

→ 多世代の人々の居場所づくりに向けて、
10年間、本当に様々な活動を行ってきました。



定期的な居場所をつくる / 開いてるデーカフェ & 駄菓子屋



定期的な居場所をつくる / 開いてるデーカフェ & 駄菓子屋



定期的な居場所をつくる / 開いてるデーカフェ & 駄菓子屋



知識や趣味を教える / サンデークラブ



定期的な居場所をつくる / たからばこ (中高生の居場所づくり)



定期的な居場所をつくる / 岡's キッチン



定期的な居場所をつくる / 開いてるデーカフェ & 駄菓子屋



親子が集まるイベント



地域との共同イベント

風太郎フェスティバル / 上北沢児童館との同時開催イベント



料理を作るイベント

留学生との餃子イベント



岡さんち食堂



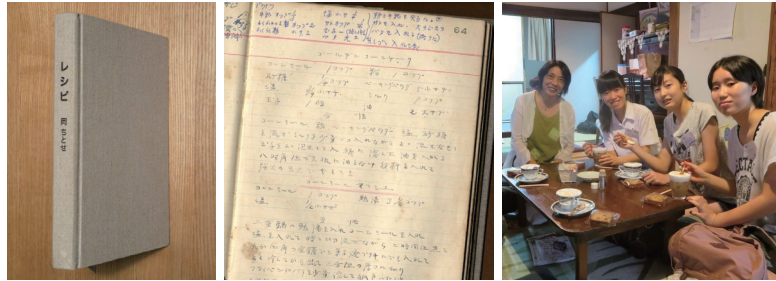
抹茶カフェ



スイーツを作ろう



岡さんのレシピ再現カフェ



いえのお手入れ

壁を塗ろう！WS



障子の張り替えイベント



大学生の研究発表会



② 岡さんのいえの外に出かける出張イベント

→ 地域の施設や大学等へ出かけることもたくさんありました。

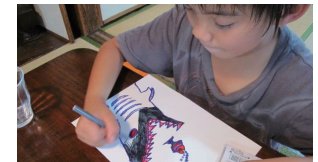
上北沢町会



世田谷区立上北沢小学校



嗣世田谷トラストまちづくり



世田谷区立上北沢小学校 「大先輩に学ぼう」 「サマースクール」

大先輩に学ぼう・段ボール工作



サマースクール・囲碁教室



(財) 世田谷トラストまちづくり・インターンシッププログラム

東京工科大学



早稲田大学



武蔵野美術大学



合同報告会



報告会



上北沢小学校・手作り広場



上北沢町会・桜まつり



上北沢町会・自由広場



③ 地域の人々にいえを使ってもらおう

→昭和の雰囲気を活かして、様々なイベントに使って頂きました。

昔懐かしい蓄音機演奏会



落語ワークショップ



理科の実験教室



音楽関係のイベント

アカペラ



クリスマス会



昔懐かしい蓄音機演奏会



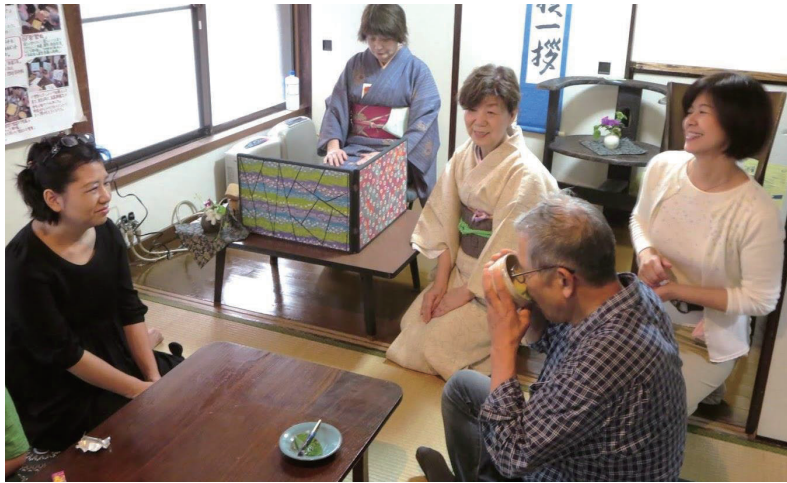
落語ワークショップ



書道教室



抹茶カフェ



理科の実験教室



157

158

④ メディアでの発信や取材

→ 人の集まる場をつくるために、様々な方法で情報発信を心掛けてきました。



岡さんのいえTOMOしんぶん



159

160

岡さんのいえTOMOしんぶん

岡さんのいえのご紹介や、イベントのご案内、場所貸しや賛助会員などのご案内もおこなっています。
運営委員の紹介なども通して、地域の皆様により身近に感じて頂けるよう取り組んできました。



岡さんのいえHP / <http://www.okasannoie.com/>



岡さんのいえへの取材 / 読賣新聞社



岡さんのいえへの取材 / NHKワールド



岡さんのいえへの視察 / 上北沢ホーム



岡さんのいえへの視察・取材 / 兵庫県西宮市



岡さんのいえへの視察 / 世田谷区



岡さんのいえへの視察 / トルコ東部国会地域開発庁



岡さんのいえへの視察 / 台湾師範大学



岡さんのいえへの視察 / 韓国富川市 (プチョン/左) ・冠岳区 (カナック/右)



岡さんのいえへの視察 / アフガニスタンカブール市



岡さんのいえからの講演 / 明治大学ボランティア講座



岡さんのいえからの講演 / 足立区NPO活動支援センター



④ 被災地支援

→ 被災地のために何かできないかと考え、現地と連携したイベントを行いました。



現地であそぼうパン (宮城県 東松島市 新東名 / 災害復興ファンド)



現地の夏祭りに参加 (宮城県 東松島市 新東名 / 災害復興ファンド)

カードゲーム遊び

絵巻物づくり

囲碁



レール跡にカキ殻キャンダルを並べました

震災を語る場づくり (宮城県 東松島市 新東名 / 災害復興ファンド)



177

東京に招待し流しそうめん (宮城県 東松島市 新東名 / 住友ゴム基金)



178

被災地と東京の親睦会 (宮城県 東松島市 新東名 / 住友ゴム基金)



179

住民が、
地域コミュニティをつくり出すこと

= **文化の生成**

つながりの生成 = まちのお茶の間
居場所をつくる

180

(3) 出かけていく公民館 ：施設と地域のはざまを埋める

沖縄県那覇市・若狭公民館の一例

バーラー公民館（公民館機能×アート）



バーラー公民館（公民館機能×アート）



防災キャンプ（防災×キャンプ）



防災キャンプ（防災×キャンプ）



相談から生まれた事業
無料英会話教室「ELIPO」
就学援助世帯およびひとり親世帯の児童・生徒を対象とした無料英会話教室。NPO法人ELIPOとしんぐるまざあず・ふぉーらむ沖縄との共催事業。

相談から生まれた事業
大学生が教える勉強会「土曜朝塾」
若狭公民館エリアの児童生徒（天妃小・若狭小・那覇小・泊小・曙小・上山中・那覇中）を対象とした学習支援。若狭小学校区まちづくり協議会と連携し、10月から12月まで、毎週土曜日に実施。

相談から生まれた事業
子ども国際映画祭 in 沖縄（KIFFO）
子どもスタッフが、受付・会場誘導・装飾・司会・舞台監督・技術（音響/照明/映写）等の映画祭運営に携わり、グランプリの決定も子ども審査員が行う。映画制作会社クルレビジョンとの共催事業。

相談から生まれた事業
南の島の南極教室
南極観測隊OBが講師となり、昭和基地との中継や南極の氷、防寒着などに触れる体験。

相談から生まれた事業
「土曜朝塾」インターン研修
「土曜朝塾」では、教員志望の大学生をインターンとして募集。学生団体が運営を担い、キャリア教育の専門家の協力を得て、事前研修、授業製作、事後研修を行っている。

相談から生まれた事業
ジュニアジャズオーケストラ那覇ウエスト
若狭公民館エリアを対象に、子どもの「文化的貧困」へのアプローチとして、黒球フィルハーモニックが取り組む事業の共催。

相談から生まれた事業
ピバ！ブラジルフカサンバ 打楽器&ダンス体験
浅草サンバカーニバルに出演するサンバチーム「アギア・シ・オウロ」の来沖に合わせて、交流企画が実現。

**(4)都市と農山村のはざまを埋める
：暮らしと仕事のはざまを埋める**

185

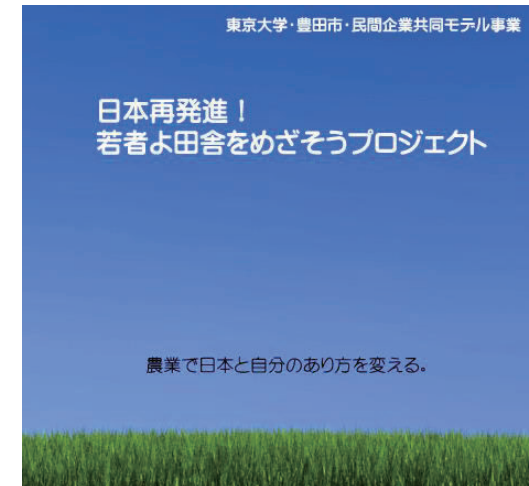
地元の過疎・高齢化は
人口が増えていた時代から起こっている

過疎・高齢化は経済構造とかかわっている

「博打」をとるのか「麻薬」をとるのか

187

過疎・高齢中山間村の活性化事業



36

186

経済構造が生んだ文化が人を動かしている

働き口があるかないかは
若者の移動にかかわりがなくなっている

⇒少子高齢人口減少という長期トレンドとは
あまりかかわりが無い

188

「お前ら、何しにきたんだ。帰れ！」
「おれたあも、捨てたのよ、この村を」
「きてくれても、何もしてやれん」



「やってくれるか」から当事者性へ

あきらめ、他人事 ⇨ 怒り、省察と当事者性

「このままじゃ、腹の虫が収まらん！」











205

旭と小原の山里の新聞店

中日新聞をはじめ、朝日新聞、毎日新聞、日経新聞、スポーツ新聞、英字新聞、業界紙、雑誌、書籍など、スタッフ36名でお届けしています。



206



207



208



209



210



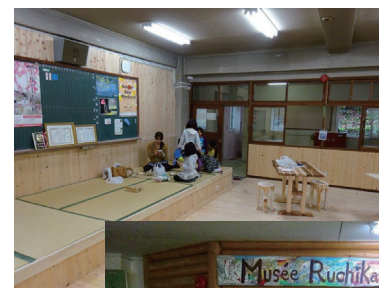
211



212



お披露目会(20180511)



施設内部





50年前の卒業生同窓会



地元企業(水処理管理)研修会



近隣のばあちゃん
クラフトバッグづくり



マレットゴルフ場の整備



タケノコチームでメンマづくり



消防団操法研修大会打ち上げ



いなかのものづくり拠点
自在工房



タイからの研修受け入れ



ご利用方法
 当施設は、会費制の施設となっています。登録団体に所属されるか、個人会員のかたが利用できます。見学のかたは事務室までお越しください。ご案内します。

団体、個人の登録は随時受付しています。お気軽にお声がけください。利用用途によって、会費が必要な場合があります。

登録団体 (平成30年6月時点)

お問い合わせ先
 つくラッセル推進コンソーシアム代表機関株式会社 M-easy
 豊田市旭八幡町堂山432番地3 (旧藤羽小学校) 0565-77-2722
 info@fukurassellife https://www.facebook.com/fukurassellife

*つくラッセル推進コンソーシアムは、企業、大学、行政法人、行政法人等が協賛する、株式会社 M-easy が施設運営を行っています。



江戶時代の寺子屋からはじまり、地域の人たちが土地、木材、時間をだしあって、学び舎としてつくりだし地域の拠り所だった場所。平成24年3月、少子高齢化の流れの中で137年の歴史に幕をおろした旧藤羽小学校。廃校後、次の活用を模索しつつ、校舎が荒れぬようにと有志でマレットゴルフクラブをつくり、敷地内の管理を担ってきました。平成30年4月、地域の新しい拠り所として、「つくラッセル」がオープンしました。ここから、再び、新しいものがたりがはじまっています。

つくラッセル
 は、「あのじいちゃんも、ようつくりなせるな」と、熊の方言で「ふる」に意訳の気持を込めてつくりました。

その名の通り、みんなの「あんなことできるかな」「やりたい!」の思いを思いをカタチにしながら、ひとつひとつ時間をかけて集まれ変わってきています。

地域に暮らす子どもからお年寄りまでみんなで集まったり、「地」や「田舎暮らし」に興味がある人が仲間を求めて集まったり、そこにいる“人”に会いたいという人が、だれでも気軽に立ち寄ったり、いろいろな人たちのかわりあいの中で、日々つくられていく。はたらく場所もあり、暮らしつづき場所でもあり、暮らしつづきの場所でもあります。

ひとつひとつの施設が個性をもちあがながら、だいたいかわりあいがながっていき、そんな地域の未来を一緒につくっていく場にしていきたいと思っています。

【施設紹介】
 ・廃校になった学校が荒れぬようにと地域のみんなでつづけたマレットゴルフ場
 ・つくらはクラブ・ホール・クラブの機能を果たした体育館
 ・大学や企業と連携してはたらく場所として活用していくシェアオフィス
 ・みんなでつづきつづきの休憩室
 ・カフェ・販売室
 ・森のめぐみに感謝して、暮らしに木をいれやすさDIYセンター
 ・暮らしにいかすものづくりの拠点をつくり、中間技術をもつ電工室、図工室
 ・高齢者の移動をたすけるモビリティスポット (車椅子ステーション、たすけあいか、コキータス、バス停)
 ・地域に根ざす研究をいやす資料リサーチセンター

また、自主上映上映会、星空観察会、子どもたちのサマーキャンプ、ミライの電算研習校、宿泊研修、木を植える、山からつくるスツールづくり講座、地域の絆づくりプロジェクト、地域スモールビジネス研究会、大学びと、企業研習など、企画されています。

たくさんのかたとのミライをつくる取り組みをしたいと思えますので、お気軽にお問い合わせください。



スローライフは忙しい

リーダー：現在100を超える仕事
 20の仕事が金儲けにつながる
 80の仕事が、
 生活を安定させる。

円(カネ)よりも縁(つながり)
 縁が円を生む

小商いがたくさん重なる
 労力・サービスの交換
 (貨幣の交換ではない)
 GDPには貢献しない

→この労力・サービスの交換が
 社会の基盤を安定させる
 GDPに貢献しなくても、
 社会全体の安定には寄与する
 →生活満足度の向上=GNHの向上

→この労力・サービスの交換が
社会の基盤を安定させる
GDPに貢献しなくても、
社会全体の安定には寄与する
→生活満足度の向上=GNHの向上

この基盤の上で、自由に金儲けを考えるべき

楽しい生活の文化

229

生きかた、暮らしかたを問いかけながら、
ライフステージに合わせて変化していく

暮らしごと

231

仕事を分け合う・負担を分け合う

生活を支えあう・収入を分け合う

地域全体をグループホームに

エネルギーの自立圏へ

中山間地が日本の最先端地域へ

230

⇒続々集まる「わかもの」たち

「暮らしごと」をキーワードに、自分たちの物語を紡ぐ
「楽しさ」=わくわくする自分をつくりだす

新しい消費社会=わくわく感を贈りあい、自分のものにする

232

豊田市総合計画にも影響

「つながる、つくる、暮らし楽しむまち とよた」

233

農山村の3つの空洞化

人・土地・むら(自治機能)

3つの空洞化の基盤にある「誇りの空洞化」

小田切徳美(明治大学教授)

235

11. 誇りの再生に向けて

234

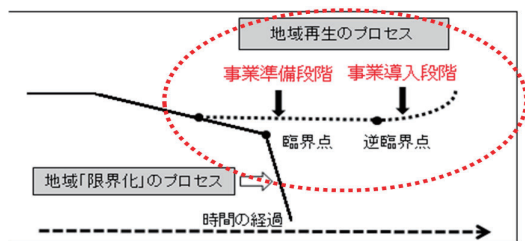
**地域住民がその地域に
住み続けることの
意味や意義を見失ってしまうこと
（「諦観」にも転化しやすい）**

小田切徳美(明治大学教授)

自信と誇りを失う

236

- 農山村集落再生プロセスの実際（新潟中越地震からの再生の教訓）
 - ・ 2つの連続的プロセス
 - 事業準備段階（足し算の段階）＝諦観の払拭プロセス（人材化過程）
 - 人による寄り添いが必要（「カネ」より「時間」）
 - 寄り添いの担い手＝地域おこし協力隊等
 - 事業実施段階（掛け算の段階）＝具体的な事業の展開
 - ノウハウと資金が必要
- 小田切徳美(明治大学教授)



237

もともと人々は多能工
工業社会では分業で単能工に
改めているいろんなことができる
「多能工」の社会へ

238

12. 自治を住民によって発明し直す

(1) 社会教育の固有性はどこにあるのか

私たちが社会として生き延びること⇨社会の持続可能性
次世代育成
相互承認・自己肯定



制度の狭間に落ち込む
子ども・住民がいないようにする
一人に対して様々なセーフティネットが
多重にかかわるようにする

239

240

小さな〈社会〉づくりの取り組みは
何をやっているのか

相互承認関係をつくる
非認知能力を向上させる
社会に信頼感をつくる

人々が自律する
自己肯定感を持てるようになる

「ことば」を使いこなして「対話」する関係

241

一般行政は「対応」「措置」はできても
「自立」（伴走・支援）は苦手

「学習」による言語と自己肯定感の必要

自らこの社会の表面に留まろうとする力
⇐「学び続ける力」の必要

243

一般行政が専門分化すればするほど、
「はざま」に落ち込むと見えなくなる

たとえば、「子ども食堂」
食事の提供では終わらない 生活習慣・学力
関われば関わるほど、社会の関心が薄れる
人が手を引く
専門家任せ
福祉は黒ずくめの人にはかなわない

学校も同様
⇒ 学校に任せきりになり、クレームをつける

242

曖昧でゆるやかで、
関心をもつ人々が
多重に覆い被さることが必要

244

さらに、「ことば」がものをいう

「ことば」が社会に信頼をつくる
「ことば」が相互肯定感を生み出す
「ことば」が自分を社会に位置づける

「ことば」が〈ちいさな社会〉の基盤となる
「ことば」が生きる力を生み出す

245

(2) はざまを埋める

〈ちいさな社会〉を無数につくって
底抜けしない社会をつくる

子ども・弱者が「はざま」に落ち込まない社会を

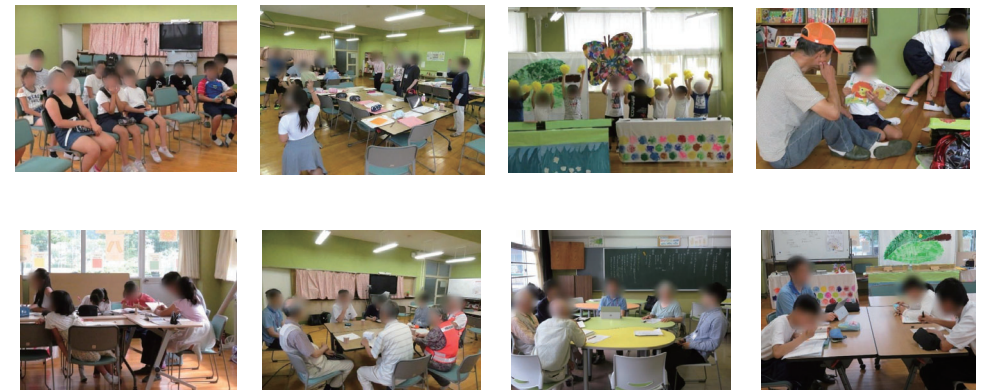
246

ぎふスーパーシニア

コミュニティスクール・地域学校協働活動
地域ルーム「ハートルーム」で高齢者と子どもたちがともに活動



247



248

○ 6/28(金)第2回のまとめ

夏季休業中のハートルームでの活動及び意見交流

「子どもたちに、社会参画する力と学び続ける力を育成したい」ハートルームが、子どもたちの誇りになってきている。(連合音楽会での発表)地域の方に褒められたり、活動を運営できたことでも自信を付けている。

～夏季休業中のハートルームの活用について～

地域

- 子ども向けの公民館講座で開催する予定である。保護者や地域の方と参加があれば、ハートルームも応援されるのではなかろうかと考えている。
- どうやってセンターしさを活かしながら活動できるかを人の意見を聞くところがある。
- 前回、運営協議会を組み直したという報告もいただいたが、組織を作っていく方が地域の方が参加しやすい。
- 清流村支の地区部は、月予定が広報で示されている。地域の人に、聞いている日や活動など広報するとよいのではなかろうか。(版の設置は?)
- 中部学院大学としては、ご要望に応じて何かできることがあるればと考えている。テストや実習等があるので、みんなで予定を合わせてできるように計画したい。

学校

- 地域の方を講師に空き、親子で参加する「石のアート」講座を考えている。子どもの居場所にも学校の教育活動に力を貸していただける方を組織してもらえ「コーディネーター」の必要性を感じている。週に一度でも、午前中だけでも構わない。
- コーディネーターを中心に、学校と地域をつないでもらえればWin-Winの関係になる。東大先生の常駐時に体験を通して理解してもらえたら。

保護者等

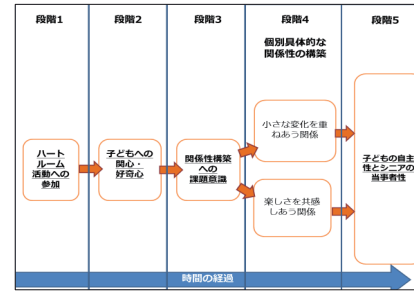
- 夏休み等、先生がいない時は、けがの対応ができませんし、防犯上の心配も出てくる。そのため先生が出てくることで働き方改革に逆行する。
- 中学生の放課後のハートルームへ参加が盛り込めてきている。(学習相談、宿題等)

<まとめ>

- 「常駐」は、ハートルームをどう経営していくのかという問題。地域の方と学校をつなぐ窓口になってもらえたら、(できることに、できることを、できる時間)
- 自己肯定感を付けるには、言葉やちゃんと伝えるように心がけ、自分のことを相手に話す、分かってもらえるという信頼感が大切ではないかと、信頼感がある。地域の方々に認められることと同時に、「やればできる」という気持ちを持って育てる過程で、一緒にやっていくことを繰り返す中で、信頼感が生まれ、それが学力の向上にもつながるのではなかろうか。



高齢者と子ども双方に信頼感にもとづく変化が



住民によるマスクづくり



子どもたちによる 高齢者へのマスクづくりと寄贈



子どもたちが自分の生活や社会の当事者となる
 高齢者が伴走することで、高齢者自身が主役となる

すべての人が主役として
 人とともに生きる社会

自治が新たに発明される

相互に慮る力
「対話」する力

⇐「ことば」が自分のものになる
➡自分が「社会」に位置づく

253

長い箸の寓話

地獄も天国になる

255

13. 「恩送り」という考えと行動

254

そのために

「学び」を社会の中に埋め込む
一般行政を社会教育的に使いこなす

サービスの提供ではなく、
住民にやれることはどんどんやる
行政は、それを支える

自治を発明し直し、住民自身が
「楽しさ」「愉しさ」に駆動される

256

この時、社会教育主事の在り方が問われる
⇒「社会教育士」

さらに、公民館主事という
「専門職」の在り方が問われる

いかに住民とともに歩めるのか

いかに住民の「学び」を支え、
自治を共に担えるのか

257

(1) 新しい生活スタイル

三密を避ける
新しい生活スタイル
ソーシャル・ディスタンス

⇒これまでの社会教育・公民館実践への挑戦

259

14. ポストコロナ時代に向けて

258

Onlineによる交流・授業・会議・商談・・・・

もう、後戻りできない
企業にとって
従業員にとって

新しい社会の構造へと転換する可能性

距離が問題ではなくなる
時間の活用の仕方が問われる

260

Onlineでの面談・交流

信頼の在り方が変わる

⇒相手を想像し、慮り、
ともに関係をつくりだす意思を持つこと

ひきこもりの子ども・若者が交流できる
引き出すのではなく、出かけるのでもなく
入り込む

見えなかった人が、見えるようになる

個別学習が主流となりつつ、
それを人との「間」に位置づける

⇒学校も変わらざるを得ない

GIGAスクールと地域学校協働の融合

261

262

(2) 新たなむすびつき方の模索

地域での親密な関係が
Online社会の基盤である
「信用」と「信任」の基礎となる

学校も個別学習へ
個別学習を全体最適に組み換えるためには
相互の「自己決定学習」と
相互の「教えあい」が求められる

リモート造形(高知県南国市)



(高知新聞2020年7月23日)

- * 高齢者もオンラインソフトを学ぶ
- * 皆で粘土を使って、造形教室
- * 先生は元海洋堂のデザイナー(一流)
- * 声をかけあい、完成させる
- * 皆で同じものをつくる
- * 鑑賞会
- * 粘土という「ネバネバ」
- * 離れているのに、一緒にいる
- * 触れあっている感触

263

264

人は人とむすびつかないではいられない存在

人は「対話」しないではいられない存在

⇒どうむすび返すのかが問われる

265

15. 「学び」という運動へ

社会をつなげる公民館へ

266

一般行政を社会教育的に組み換える

住民が「地域社会」をつくり、担い、経営する

⇨住民の「学習」支援の論理

267

連携・協働・参加



〈ちいさな社会〉が幾重にも重なる
社会基盤の再生

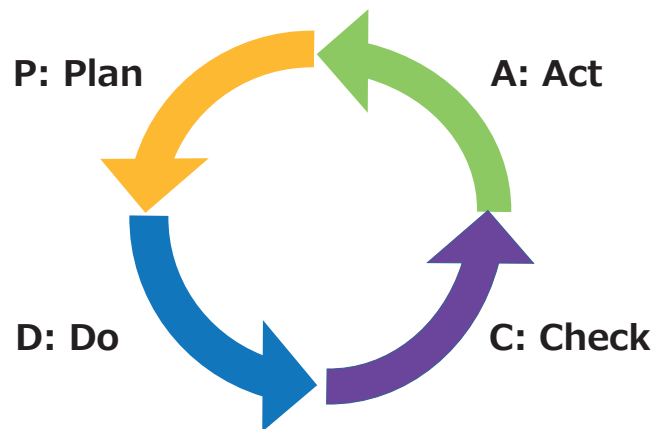
「自治」を発明し直す
つくり・担う

268

相手への想像力と配慮

「慮る力」と「対話」によって
新しい価値をつくりだす力

269



271

PDCAは地域社会や人の活動を壊してしまう

エビデンス・ベーストの事業評価も同様

医療モデル

工業製品の歩留まりの改善のための手法

270

PDCAは評価・数量化ベースの手法

単一の目標設定が可能な計画に有効

これをまちづくりや社会教育・生涯学習に適用すると

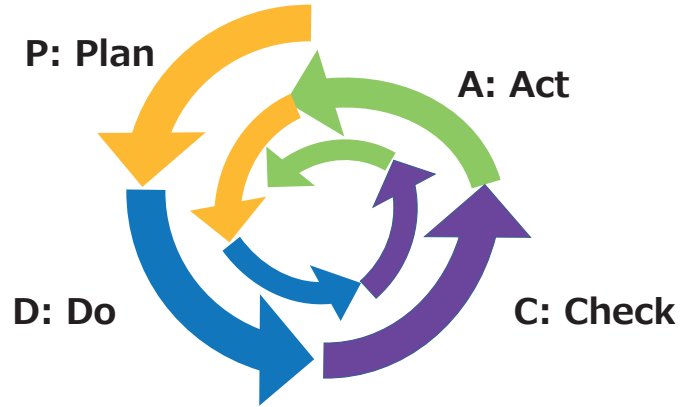
できることしか計画しなくなる

どんどん小さくなる

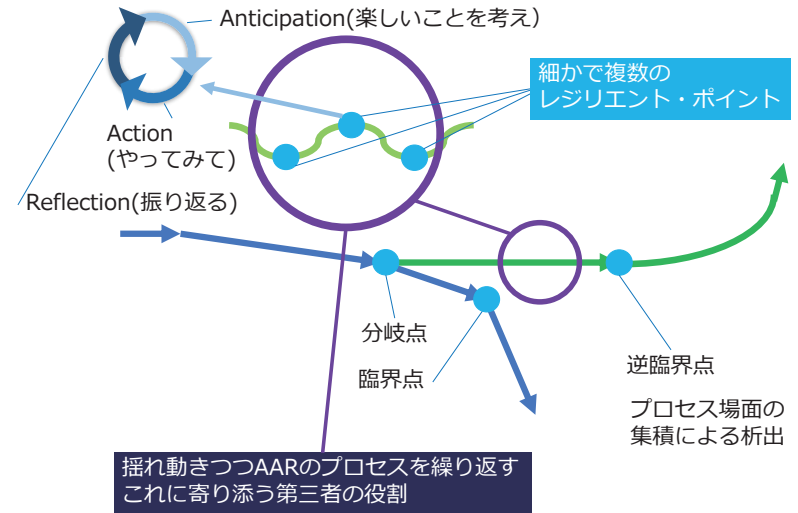
閉鎖系の構造

272

実際は・・・

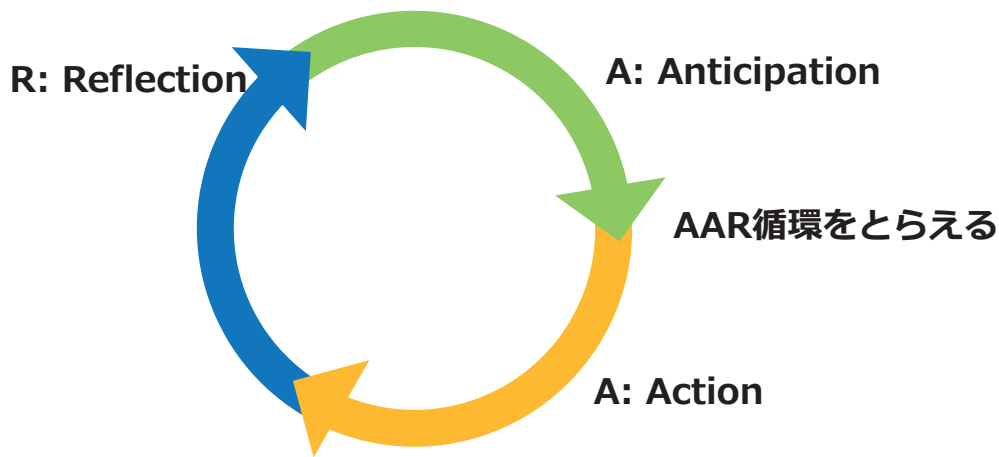


273



24

274



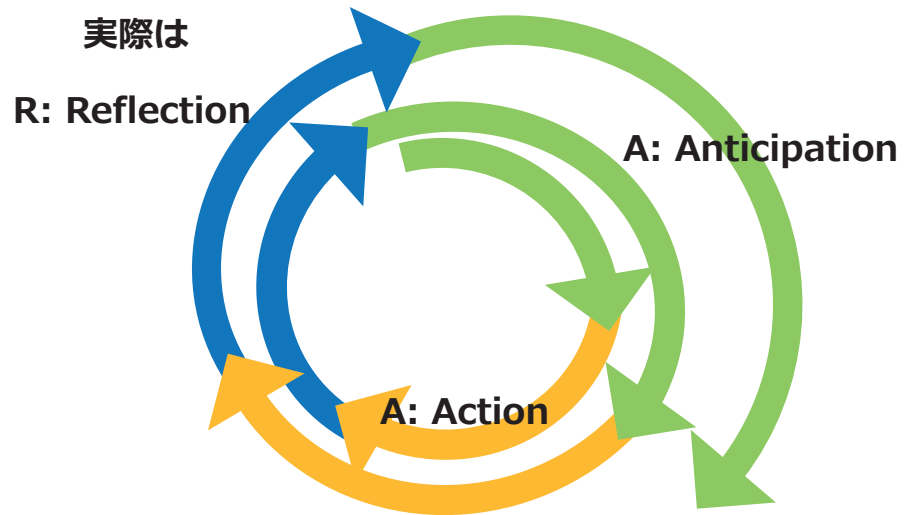
Anticipation : 予期する・予測する
 ⇨何か「楽しいこと・嬉しいこと」
 を考えてウキウキする

Action : やってみる

Reflection : 振り返る
 ⇨評価しない
 振り返って、さらにAnticipation
 どんどん多様になる

275

276



277

「楽しさ」「愉しさ」に駆動される
試行錯誤
開放系の構造

278

この開放系の試行錯誤のプロセスそのものが「学び」
「楽しさ」「愉しさ」に駆動される

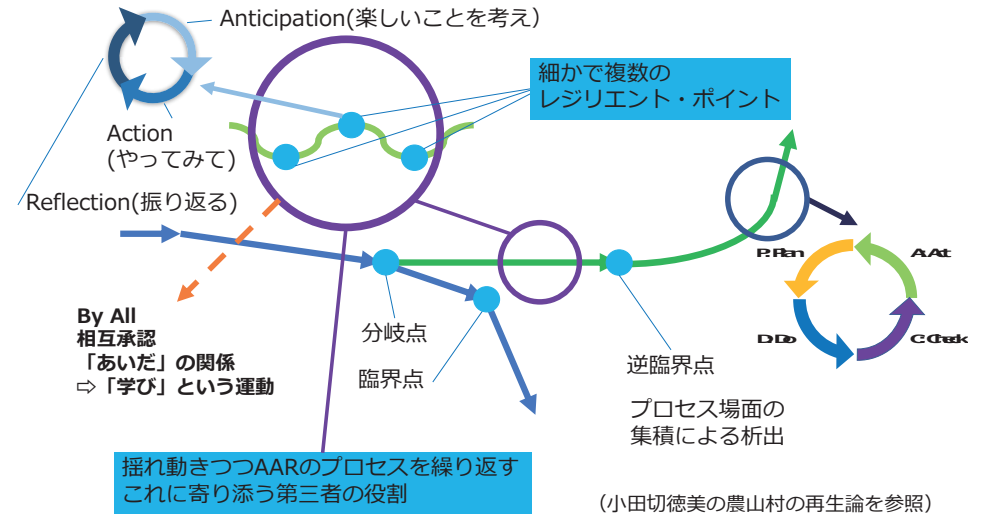
エピローグ : FOR ALLからBY ALLへ

279

280

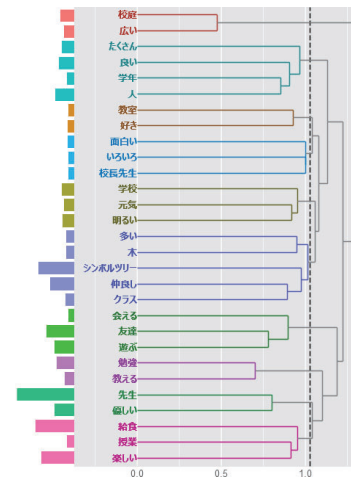
「学び」：
 AARの開放系の試行錯誤のプロセス
 終わりのない「あいだ」づくりのプロセス
 自分を他者・環境との「間」として作り出すプロセス

⇒自分：その都度の関係態
 = 「あいだ」をつくり、「あいだ」となる

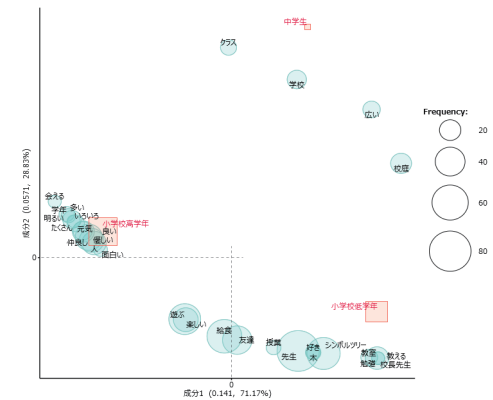


By Allのワークショップ手法：たとえばKJ法

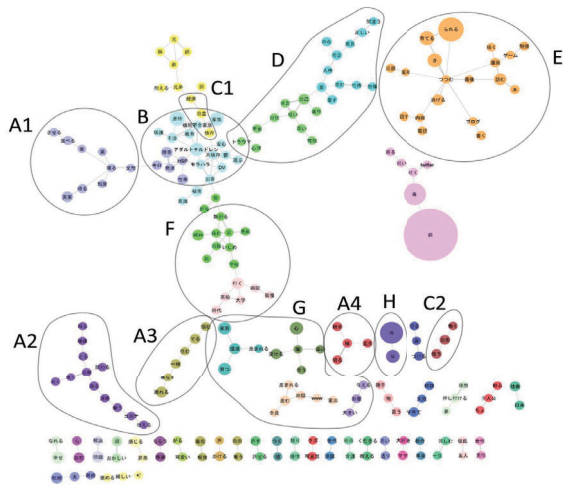
分けない
 ⇒重ねる
 ⇒すべての人の意見が反映される
 = BY ALL



学校の好きなおところ
 クラスター分析



学校の好きなおところ
 対応関係



ことばの共起ネットワーク図

「あいだ」の関係 = 価値を読み込む
 すべての人が当事者に

想像力 = 相手を慮ること
 自分に即して、相手の立場に立つこと
 すべての意見に自分の意見が入っている

参加者全員が当事者になる
 自分を尊重してもらえる
 相手を尊重している
 信頼感と想像力

学ばないではいけない社会へ

生涯学習（学び続ける）社会へ

その基盤としての公民館へ

人生100年時代を生きぬく
「学び続ける力」を